

「起業家魂の挑戦は続く」

アルプス電気株の金型部門から独立、創業

マイクロトップは精密金型企業として1993（平成5）年に創業しました。私はそれまで約20年、アルプス電気株の金型部門で金型に関する経験と技術を培いました。

創業は私のほか7名でスタートし、いずれも金型の設計や製造に精通した頼もしいメンバーでしたが、創業初期の多難な時期をアルプス電気株様の多大な支援をいただき乗り切ることができました。アルプス電気株様には大変感謝するとともに、現在でも弊社の力強いパートナーとして取引させていただいております。以降、弊社オリジナルの技術も加えて、事業に取り組んだ結果、多くのお客様から評価をいただき、取引顧客も増加傾向にあります。

弊社は設立当初から精密加工技術の特徴に事業に取り組んできましたが、私のものづくりの

基本の1つに「工作機械を深く理解し大事に使いこなす」ということがあります。

これは私が先輩から教わり、実践してきたことで、現在も社員に徹底して指導しています。単に機械を動かすだけでなく少々の訓練で誰でもできるようになりますが、マイクロ単位の顧客要求には対処できません。機械の特徴やコンディションなどを熟知して使いこなすことが重要で、中にはツールとワークの微妙な接触音を聞き分けて精密な加工をするものもあります。最新鋭の工作機械が必要な仕事もあるかもしれませんが、私のベースには「職人精神のものづくり」が常にあります。日本の精密加工技術のアドバンテージはここにあると思っています。

海外進出と外国人労働者の活用

大手電子部品メーカー向けダイカスト金型

の需要が増えてきた時期、お客様は既にグローバルに事業を展開していましたが、フィリピンの生産拠点の規模拡大に伴い、弊社にもフィリピン進出の招きがありました。弊社を頼りにしてくれ、事業拡大の絶好のチャンスでした。一方で設立資金の他、様々なリスクがあり大きな経営判断でしたが、金融機関の支援もあり、2010（平成22）年にフィリピンに生産拠点を設立しました。以降、ダイカスト金型に加えて新規顧客も増える中、自社金型を用いた樹脂部品の量産も事業化しました。

設立当初はマニュアル化ができない領域のある金型製造の難しさや、税法・労働法など日本の経営スタイルと異なり苦戦しました。しかし、フィリピン拠点の立上げはグループの最重要課題との認識のもと、本社からエース級の社員を投入し、生産や品質保証体制を整備しました。



株式会社マイクロトップ
（八幡平市）
代表取締役

門 脇 稔



当社フィリピン工場内（上）
と技能実習生（右）



現在では軌道に乗り、従業員200名、生産規模も本社を上回る状況で、東南アジア地区の生産拠点として重要な役割を担っています。日本式とフィリピン式の経営の調和が図れ、明るく社交的そして家族思いで働き者のフィリピンの国民性もマッチし、良好に会社を運営しております。

そのようなフィリピンの労働力を日本でも活用したく、2016年3月から「外国人技能実習制度」により、フィリピンから労働者を受け入れています。日本で技能・技術・知識を習得

し、帰国後に習得した能力やノウハウを發揮してもらい、自身の職業生活の向上や産業・企業の発展に繋がってくれればと願っています。

さらに弊社のフィリピン子会社に就職して活躍してくればベストシナリオと思っています。技能実習生は、日本の技術を吸収したいと高い志を持って仕事をしてくれます。そういった社員を迎えることで、刺激の少ない職場に活気が溢れ、仕事を教えるチャンスの少ない若手社員も意欲が向上しているように感じています。国内の労働力不足も補え、技能実習生を受け入れることの相乗効果は十分あると思っています。

競争から共創の時代。協業ものづくりを夢見る

私は、会社創業以来、次の3点を常に自身に言い聞かせながら事業に取り組んできました。

1点目は「本業の精密加工技術からブレない」ことです。事業の基盤は金型製造ですが、今では金型並みの精度が要求される装置用パーツなどの需要もあり、仕事の領域が広がってきました。

2点目は「トップの戦略や指示がブレない」ことです。これがブレてしまうと、せっかく社員が努力してくれても会社は成り立ちません。当然、外部や内部環境の変化で大なり小なり戦略の転換はありますが、変更の背景を含めて、

社員に説明し理解してもらうことが重要だと思っています。

3点目は「ものづくりの基本は人づくり」の思想です。人材づくりの手法は様々あると思いますが、決して特効薬があるわけではなく、真の人間関係をいつも大切にすることに尽きると思っています。私は、社長の立場であっても、一方的に押し付けず、人の話を謙虚に聞く姿勢を意識しています。

弊社は自身を含め8名で起業しましたが、現在では4名はこの近隣で独立し、起業しています。独立することは自立であり、それぞれの企業が成長してくれていることを非常に嬉しく、頼もしく思っています。また、各社のネットワークは強く、仕事のパートナーとして太いパイプで繋がれており、組織は小さくてもそれぞれ特徴を持って、時代の要請に応えながら自社の時代を作り上げています。

これからは「競争から共創の時代」と言われています。この地には自社ブランドを持った会社、開発・設計会社、精密加工会社、成形・プレス会社、コーティング技術を持った会社など、多くの中小企業群が集積しています。各企業の得意分野を活用して、この地域集団の協業により、岩手から世界に誇れる商品を発信したいという夢を持ち続けています。いえ、夢ではなく実現できると強く思います。